

2. 人口の将来推計

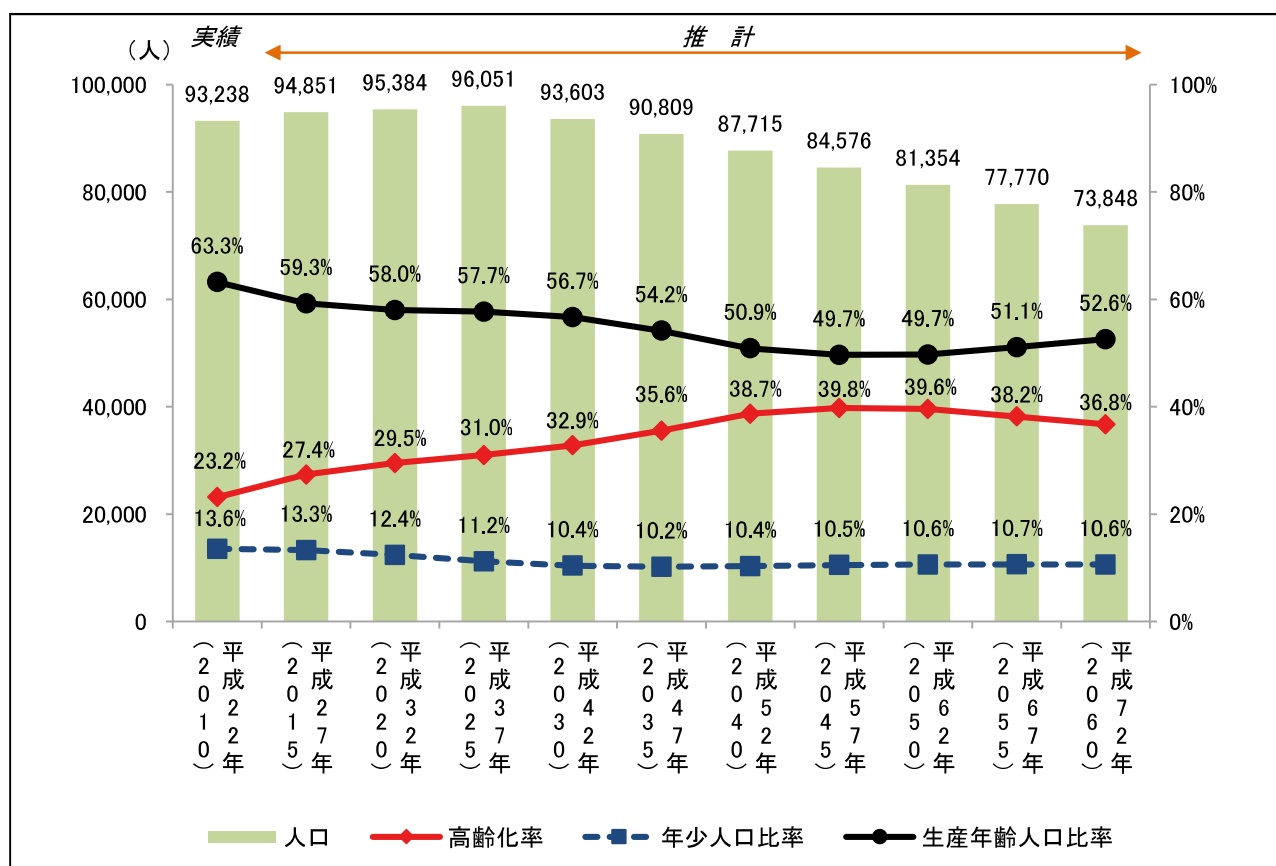
(1) 本市の独自推計による将来人口

平成27年（2015年）3月に、本市の将来人口について独自推計を行いました。推計にあたっては、社会保障・人口問題研究所による推計が平成17年（2005年）から平成22年（2010年）の人口移動状況をもとに算定を行っているのに対して、独自推計では直近の人口移動状況（～平成26年（2014年））を組み込み、将来の市内での住宅開発動向等も踏まえた推計としています。

その結果によれば、人口は平成37年（2025年）に約9万6千人に達し、それ以降は減少基調に転じ、平成52年（2040年）には9万人を下回り、平成67年（2055年）には8万人を下回るものと見込んでいます。

高齢化率は上昇を続け、平成57年（2045年）に39.8%に達し、以降は緩やかに減少していくものと見込んでいます。一方、年少人口比率は平成47年（2035年）頃まで低下が続きますが、以降は横ばいで推移するものと見込んでいます。

図表 人口の将来推計（本市の独自推計）



(資料) 芦屋市将来人口推計報告書(平成27年3月)

なお、独自推計における人口増減の内訳は次のようになります。独自推計では、平成37年(2025年)まで南芦屋浜地区での住宅開発等による人口増加を見込んでおり、純移動数(転出入の差)はプラス(転入超過)となります。以降も純移動数はプラスを維持する見込みとなりますが、出生数の減少、死亡数の増加がそれを上回るため、人口は減少していくと見込んでいます。

図表 独自推計における人口増減の内訳

	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口(人)	93,238	94,851	95,384	96,051	93,603	90,809	87,715	84,576	81,354	77,770	73,848
15～49歳女性人口(人)	21,500	20,587	19,176	17,674	16,679	16,059	15,685	15,288	14,593	13,821	12,926
合計特殊出生率	1.32	1.38	1.35	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33

5年間累計値	平成22年 (2010)→ 平成27年 (2015)	平成27年 (2015)→ 平成32年 (2020)	平成32年 (2020)→ 平成37年 (2025)	平成37年 (2025)→ 平成42年 (2030)	平成42年 (2030)→ 平成47年 (2035)	平成47年 (2035)→ 平成52年 (2040)	平成52年 (2040)→ 平成57年 (2045)	平成57年 (2045)→ 平成62年 (2050)	平成62年 (2050)→ 平成67年 (2055)	平成67年 (2055)→ 平成72年 (2060)
出生数(人)	3,960	3,437	3,155	3,054	3,011	2,951	2,877	2,748	2,601	2,433
死亡数(人)	4,537	5,199	5,866	6,464	6,760	6,985	6,940	6,931	7,141	7,297
純移動数(人)	2,190	2,295	3,378	962	955	940	924	961	956	942
人口増減数(人)	1,613	533	667	-2,448	-2,794	-3,094	-3,139	-3,222	-3,584	-3,922

<参考：独自推計の推計方法>

- ・小学校区別に推計し、合算して全市人口としています。
 - ・出生数は、15～49歳の女性人口に社会保障・人口問題研究所設定の「女性子ども比」を掛け、5年間の出生数(0～4歳人口)としています。
 - ・死亡数は、各コーホート(5歳階級別人口)に社会保障・人口問題研究所設定の「生残率」を掛け、5年後の生残数を算定し、その差を5年間の死亡数としています。
 - ・純移動数は、各コーホート(5歳階級別人口)に小学校区別の「純移動率」を掛け、5年間の純移動数(転入数-転出数)としています。なお、小学校区別の純移動率は、社会保障・人口問題研究所設定の「純移動率」をもとに、各小学校区の直近の純移動率で補正したものを用いています。
- ※ 純移動数は「転入数-転出数」ですが、推計においては転入・転出別ではなく、正味の移動数をもとにした割合で計算を行っています。したがって社会移動は「転出・転入数」ではなく「純移動数」として表示しています。

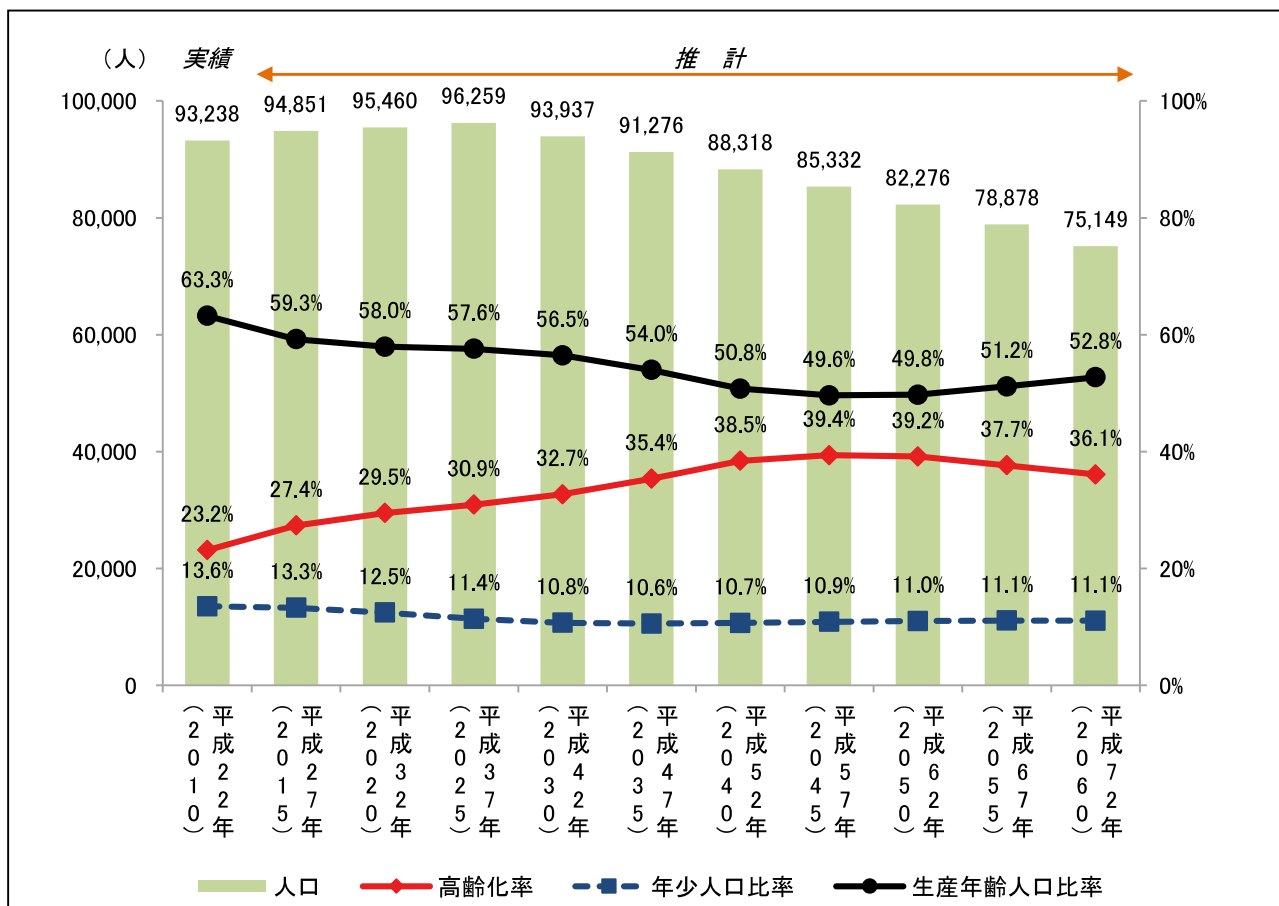
(2) 将来人口のシミュレーション

前述の独自推計の考え方を基本として、合計特殊出生率等を変化させた場合の人口推移についてシミュレーションを行ったところ、以下のような結果となりました。

① 合計特殊出生率が現在の全国平均値に上昇した場合

合計特殊出生率が、現在の全国平均値である1.38に上昇した場合は次のようになります。平成72年（2060年）には、人口は約7万5千人程度になると見込まれます。

図表 人口の将来推計（合計特殊出生率が現在の全国平均値に上昇した場合）



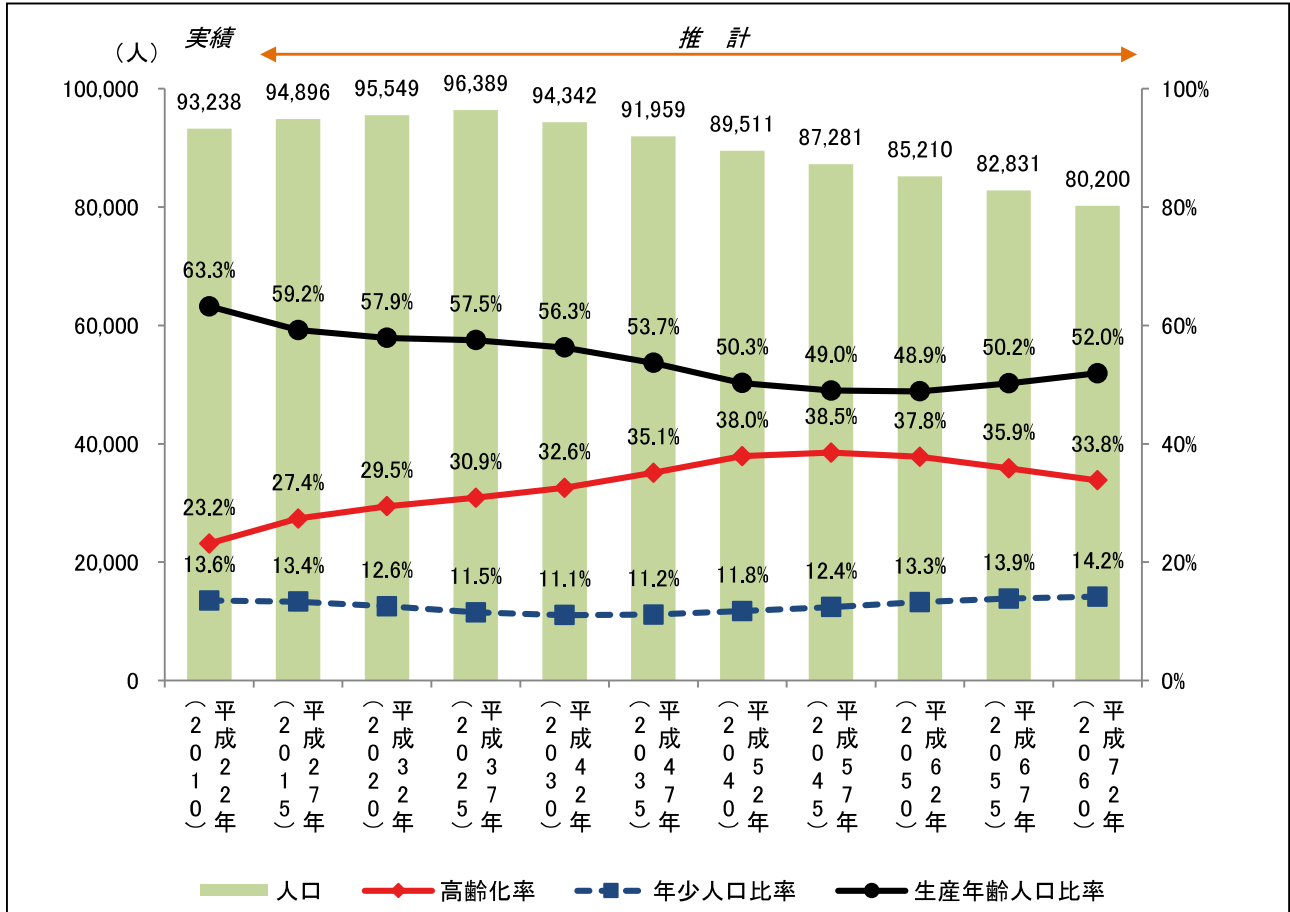
	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口(人)	93,238	94,851	95,460	96,259	93,937	91,276	88,318	85,332	82,276	78,878	75,149
15～49歳女性人口(人)	21,500	20,587	19,176	17,674	16,679	16,099	15,790	15,462	14,838	14,148	13,340
合計特殊出生率	1.32	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38

	平成22年 (2010)→ 平成27年 (2015)	平成27年 (2015)→ 平成32年 (2020)	平成32年 (2020)→ 平成37年 (2025)	平成37年 (2025)→ 平成42年 (2030)	平成42年 (2030)→ 平成47年 (2035)	平成47年 (2035)→ 平成52年 (2040)	平成52年 (2040)→ 平成57年 (2045)	平成57年 (2045)→ 平成62年 (2050)	平成62年 (2050)→ 平成67年 (2055)	平成67年 (2055)→ 平成72年 (2060)
出生数(人)	3,960	3,513	3,286	3,180	3,136	3,085	3,023	2,902	2,767	2,610
死亡数(人)	4,537	5,199	5,866	6,464	6,760	6,985	6,940	6,933	7,144	7,300
純移動数(人)	2,190	2,295	3,379	962	963	942	931	975	979	961
人口増減数(人)	1,613	609	799	-2,322	-2,661	-2,958	-2,986	-3,056	-3,398	-3,729

② 合計特殊出生率が国の目標値まで上昇した場合（パターン1）

合計特殊出生率が、国民の希望子ども数を実現するために必要な水準として国が目標としている1.8まで上昇した場合は次のようになります。おおむね平成62年（2050年）までに段階的に上昇する想定では、平成72年（2060年）には、人口は約8万人程度になると見込まれます。

図表 人口の将来推計（合計特殊出生率が国の目標値まで上昇した場合（パターン1））



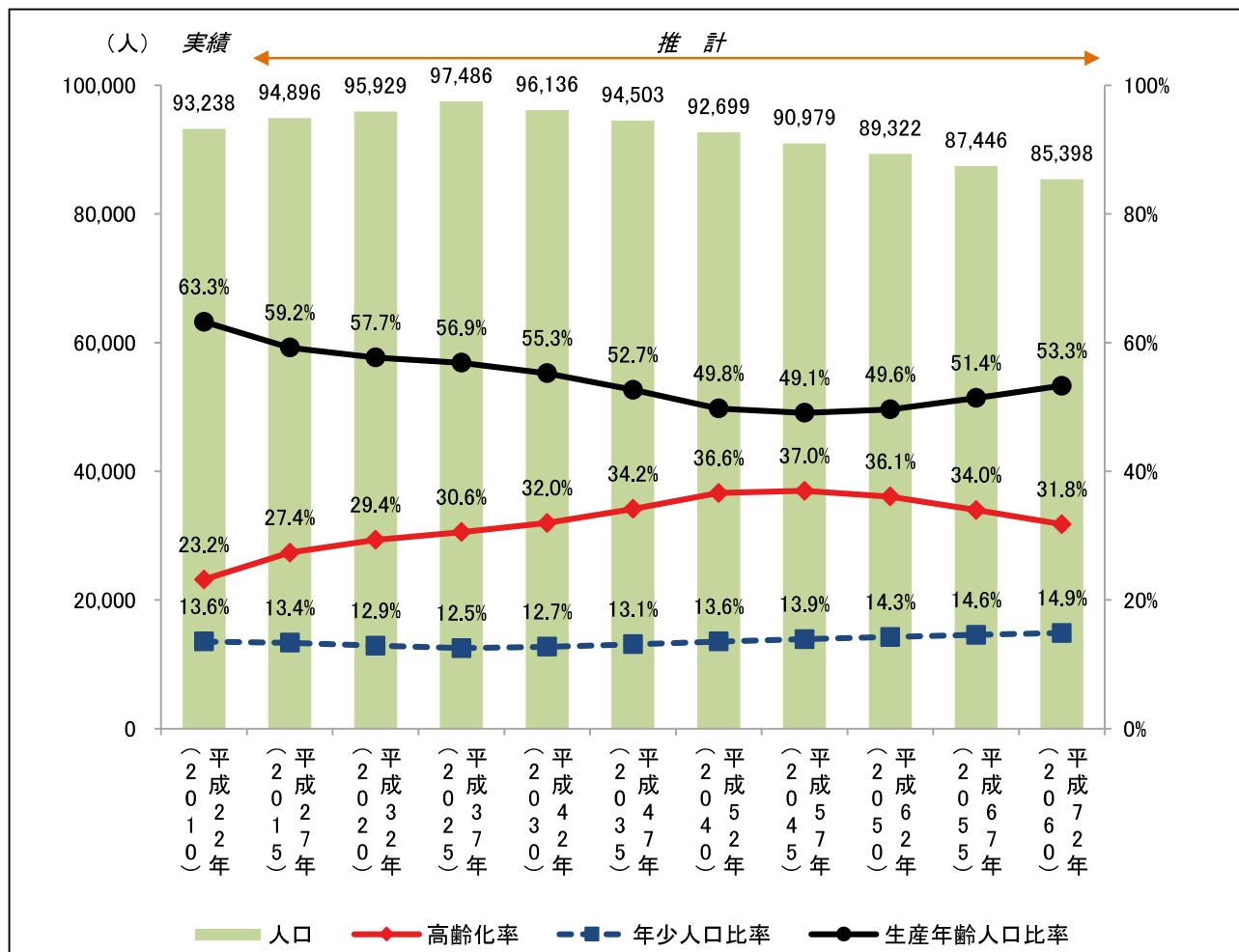
	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口(人)	93,238	94,896	95,549	96,389	94,342	91,959	89,511	87,281	85,210	82,831	80,200
15～49歳女性人口(人)	21,500	20,587	19,176	17,674	16,703	16,145	15,861	15,676	15,202	14,779	14,376
合計特殊出生率	1.32	1.40	1.40	1.40	1.50	1.50	1.60	1.70	1.80	1.80	1.80

	平成22年 (2010)→ 平成27年 (2015)	平成27年 (2015)→ 平成32年 (2020)	平成32年 (2020)→ 平成37年 (2025)	平成37年 (2025)→ 平成42年 (2030)	平成42年 (2030)→ 平成47年 (2035)	平成47年 (2035)→ 平成52年 (2040)	平成52年 (2040)→ 平成57年 (2045)	平成57年 (2045)→ 平成62年 (2050)	平成62年 (2050)→ 平成67年 (2055)	平成67年 (2055)→ 平成72年 (2060)
出生数(人)	4,005	3,557	3,328	3,453	3,411	3,585	3,765	3,866	3,760	3,656
死亡数(人)	4,537	5,199	5,866	6,464	6,761	6,985	6,940	6,933	7,145	7,302
純移動数(人)	2,190	2,295	3,378	964	967	952	945	996	1,006	1,015
人口増減数(人)	1,658	653	840	-2,047	-2,383	-2,448	-2,230	-2,071	-2,379	-2,631

③ 合計特殊出生率が国の目標値まで上昇した場合（パターン2）

パターン1の前提において、合計特殊出生率が1.8まで上昇する時期を早め、おおむね平成42年（2030年）とする想定では、さらに人口減少は抑えられ、平成72年（2060年）には、人口は約8万5千人程度になると見込まれます。

図表 人口の将来推計（合計特殊出生率が国の目標値まで上昇した場合（パターン2））



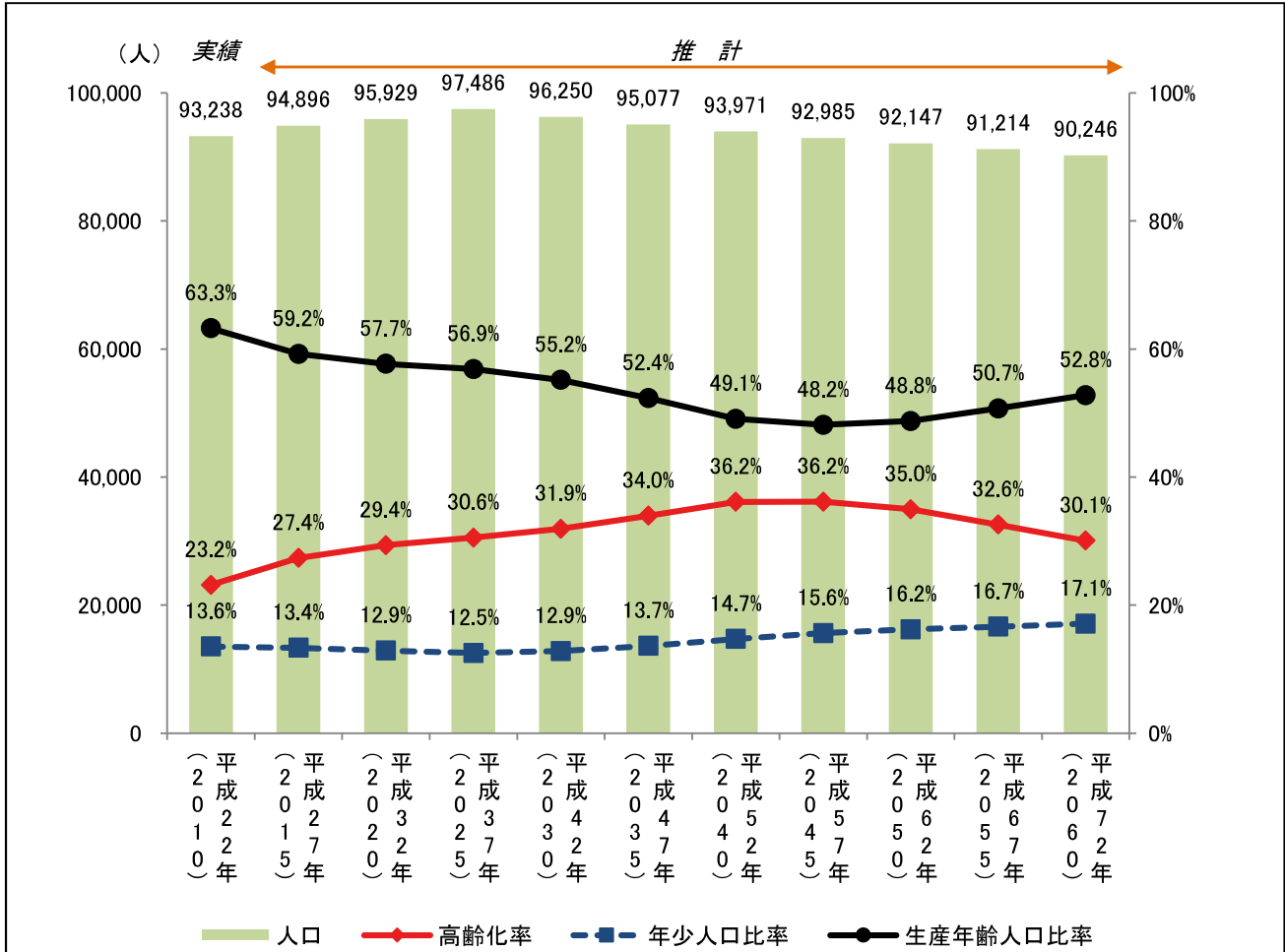
	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口(人)	93,238	94,896	95,929	97,486	96,136	94,503	92,699	90,979	89,322	87,446	85,398
15～49歳女性人口(人)	21,500	20,587	19,176	17,674	16,703	16,341	16,440	16,641	16,593	16,530	16,421
合計特殊出生率	1.32	1.40	1.55	1.70	1.80	1.80	1.80	1.80	1.80	1.80	1.80

	平成22年 (2010)→ 平成27年 (2015)	平成27年 (2015)→ 平成32年 (2020)	平成32年 (2020)→ 平成37年 (2025)	平成37年 (2025)→ 平成42年 (2030)	平成42年 (2030)→ 平成47年 (2035)	平成47年 (2035)→ 平成52年 (2040)	平成52年 (2040)→ 平成57年 (2045)	平成57年 (2045)→ 平成62年 (2050)	平成62年 (2050)→ 平成67年 (2055)	平成67年 (2055)→ 平成72年 (2060)
出生数(人)	4,005	3,937	4,041	4,145	4,143	4,182	4,230	4,221	4,205	4,178
死亡数(人)	4,537	5,199	5,866	6,464	6,761	6,985	6,940	6,935	7,148	7,311
純移動数(人)	2,190	2,295	3,382	969	985	999	990	1,057	1,067	1,085
人口増減数(人)	1,658	1,033	1,557	-1,350	-1,633	-1,804	-1,720	-1,657	-1,876	-2,048

④ 合計特殊出生率が人口置換水準まで上昇した場合

合計特殊出生率が、長期的に人口を維持するために必要とされる水準（人口置換水準）である2.1まで上昇した場合は次のようになります。おおむね平成52年（2040年）までに合計特殊出生率が2.1に上昇する想定では、平成72年（2060年）には、人口は約9万人程度になると見込まれます。

図表 人口の将来推計（合計特殊出生率が人口置換水準まで上昇した場合）



	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口(人)	93,238	94,896	95,929	97,486	96,250	95,077	93,971	92,985	92,147	91,214	90,246
15～49歳女性人口(人)	21,500	20,587	19,176	17,674	16,703	16,341	16,440	16,698	16,888	17,201	17,503
合計特殊出生率	1.32	1.40	1.55	1.70	1.85	2.00	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10

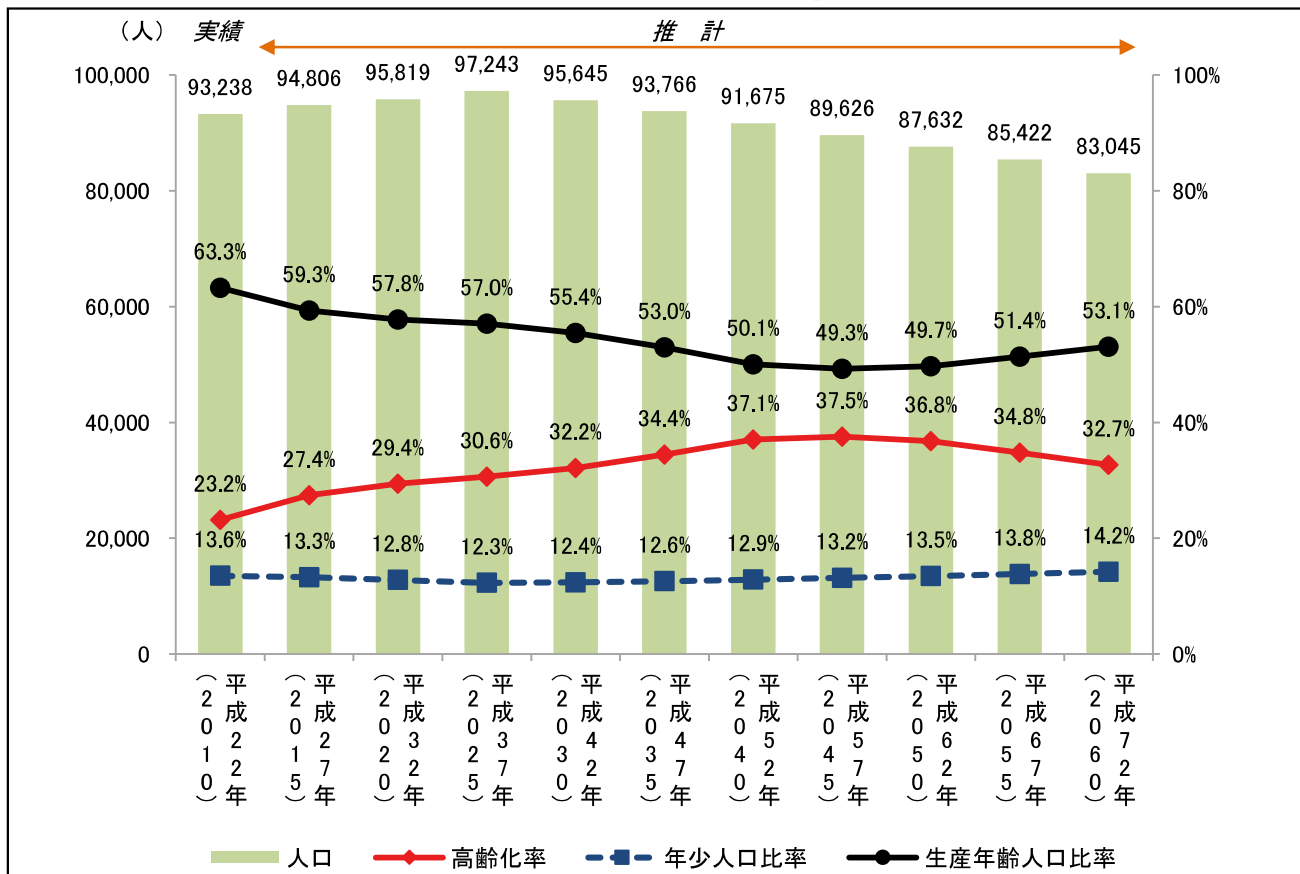
	平成22年 (2010)→ 平成27年 (2015)	平成27年 (2015)→ 平成32年 (2020)	平成32年 (2020)→ 平成37年 (2025)	平成37年 (2025)→ 平成42年 (2030)	平成42年 (2030)→ 平成47年 (2035)	平成47年 (2035)→ 平成52年 (2040)	平成52年 (2040)→ 平成57年 (2045)	平成57年 (2045)→ 平成62年 (2050)	平成62年 (2050)→ 平成67年 (2055)	平成67年 (2055)→ 平成72年 (2060)
出生数(人)	4,005	3,937	4,041	4,259	4,604	4,877	4,954	5,011	5,103	5,197
死亡数(人)	4,537	5,199	5,866	6,464	6,761	6,985	6,940	6,936	7,151	7,316
純移動数(人)	2,190	2,295	3,382	969	984	1,002	1,000	1,087	1,115	1,151
人口増減数(人)	1,658	1,033	1,557	-1,236	-1,173	-1,106	-986	-838	-933	-968

⑤ 「出生数維持」の考え方に基づく場合

兵庫県では、人口の自然増（出生数）対策として、「出産適齢期の女性が減少する中、ひょうご子ども・子育て未来プラン（平成27～31年度）を推進し、同プランが目標とする年間出生数44千人を2060年まで維持する。」という目標を設定しています。

この目標の考え方を、本市に適用した場合の推計を行いました。本市の平成26年（2014年）の出生数783人（5年間で3,915人）を以降も維持するものとして推計を行いました。その結果によれば、平成72年（2060年）には、人口は約8万3千人程度になると見込まれます。

図表 人口の将来推計（「出生数維持」の場合）



	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口(人)	93,238	94,806	95,819	97,243	95,645	93,766	91,675	89,626	87,632	85,422	83,045
15～49歳女性人口(人)	21,500	20,587	19,176	17,674	16,668	16,295	16,333	16,421	16,243	16,016	15,701
合計特殊出生率	1.32	1.37	1.54	1.65	1.70	1.71	1.70	1.69	1.71	1.73	1.76

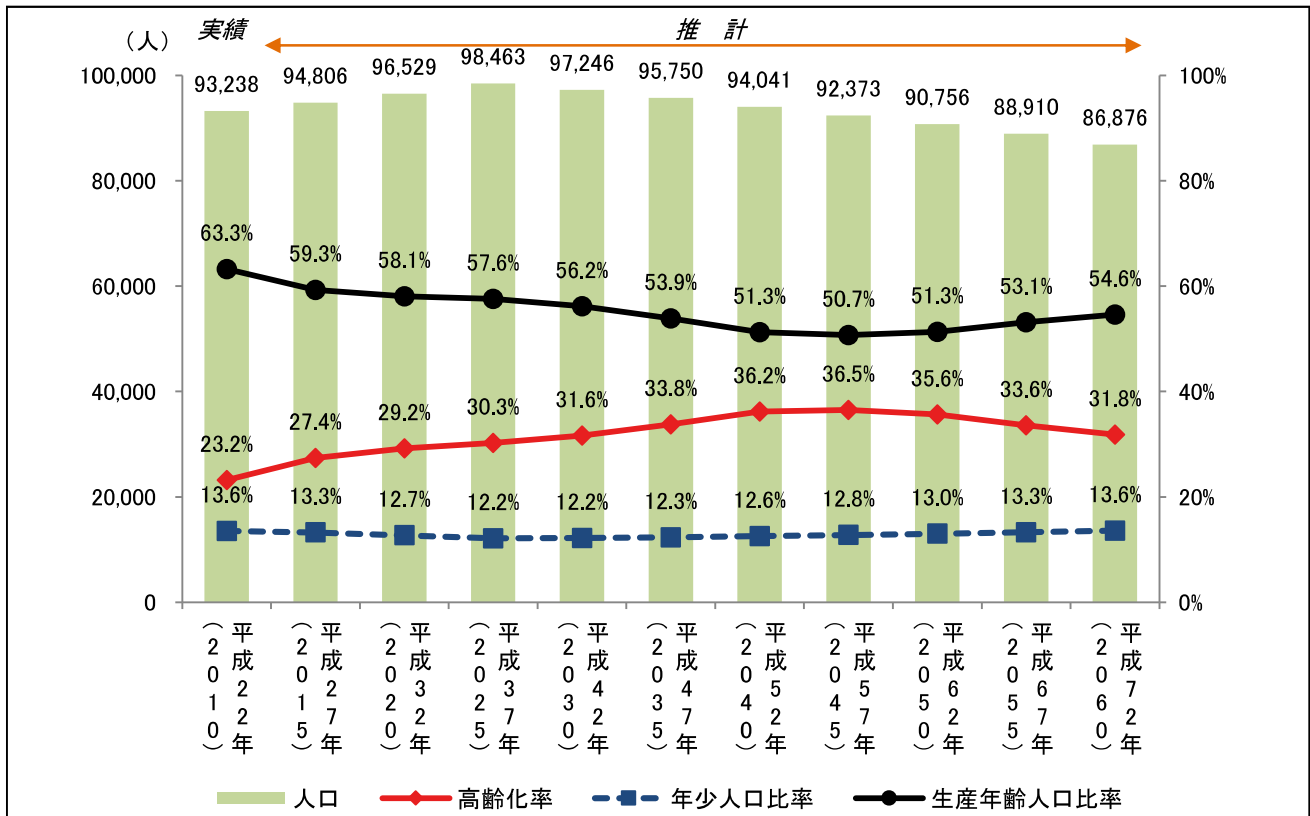
	平成22年 (2010)→ 平成27年 (2015)	平成27年 (2015)→ 平成32年 (2020)	平成32年 (2020)→ 平成37年 (2025)	平成37年 (2025)→ 平成42年 (2030)	平成42年 (2030)→ 平成47年 (2035)	平成47年 (2035)→ 平成52年 (2040)	平成52年 (2040)→ 平成57年 (2045)	平成57年 (2045)→ 平成62年 (2050)	平成62年 (2050)→ 平成67年 (2055)	平成67年 (2055)→ 平成72年 (2060)
出生数(人)	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915
死亡数(人)	4,537	5,199	5,866	6,464	6,760	6,987	6,942	6,935	7,148	7,307
純移動数(人)	2,190	2,297	3,375	951	966	981	978	1,026	1,023	1,015
人口増減数(人)	1,568	1,013	1,424	-1,598	-1,879	-2,091	-2,049	-1,994	-2,210	-2,377

⑥ 「出生数維持」及び「社会増」の考え方に基づく場合

兵庫県では、人口の社会増（人口の転出超過の均衡）対策として、「2020年において東京圏及び大阪府への転出超過の解消を図る。」「ファミリー層及び壮年層の転入を促進する。」という目標を設定しています。

前述の「出生数維持」に加え、社会増の目標の考え方も併せて本市に適用した場合の推計を行いました。転入数については、兵庫県人口における本市人口の割合（約1.7%）で本市分を算定し、「若者（20代）を128人/年、ファミリー層（30代）を8人/年、壮年層（50代）を6人/年、現行トレンドに基づく移動数に加えて転入させる」という想定としました。その結果によれば、平成72年（2060年）には、人口は約8万6千人程度になると見込まれます。

図表 人口の将来推計（「出生数維持」及び「社会増」の場合）



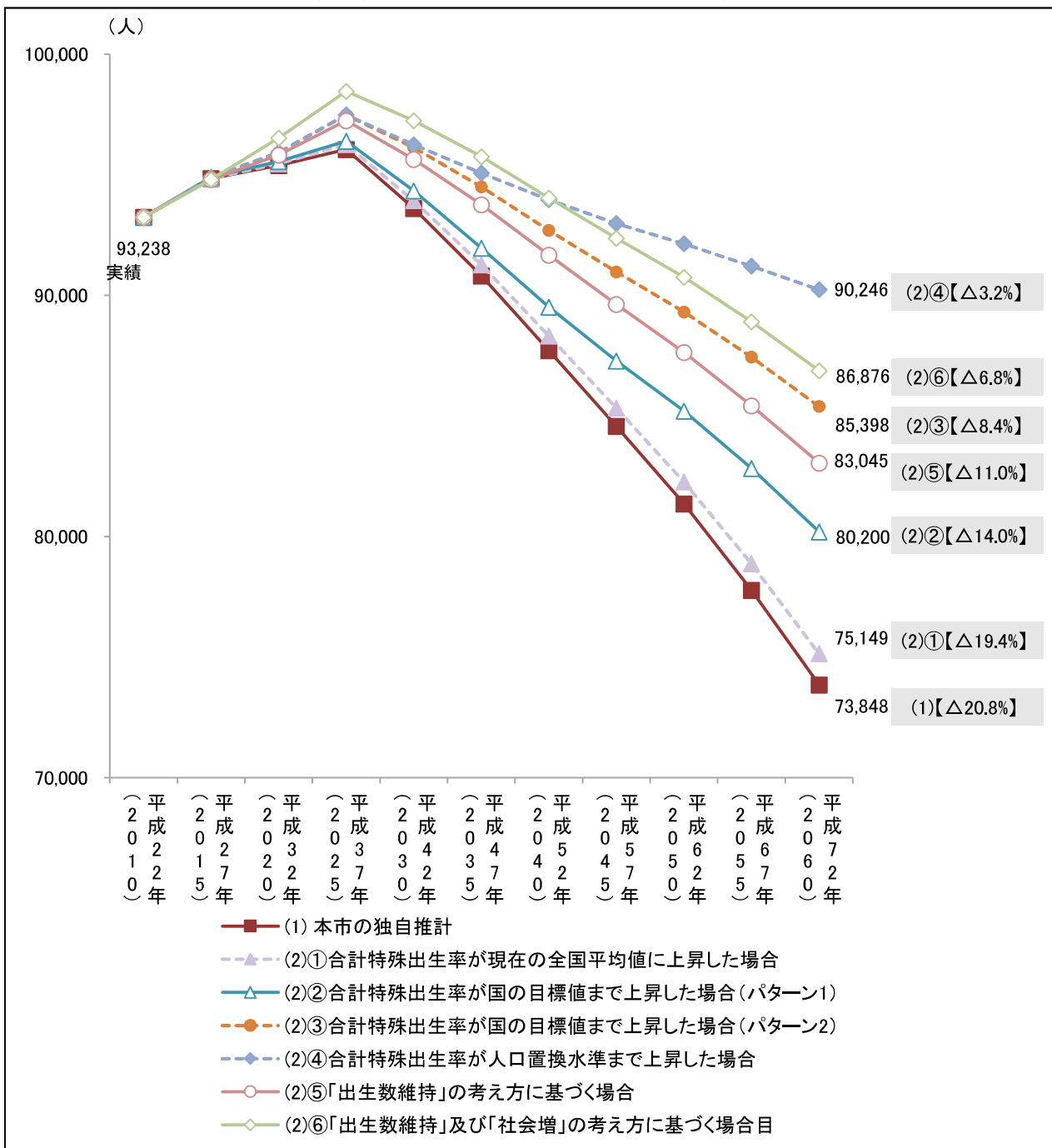
	平成22年(2010)	平成27年(2015)	平成32年(2020)	平成37年(2025)	平成42年(2030)	平成47年(2035)	平成52年(2040)	平成57年(2045)	平成62年(2050)	平成67年(2055)	平成72年(2060)
総人口(人)	93,238	94,806	96,529	98,463	97,246	95,750	94,041	92,373	90,756	88,910	86,876
15～49歳女性人口(人)	21,500	20,587	19,456	18,159	17,307	17,078	17,254	17,341	17,062	16,805	16,489
合計特殊出生率	1.32	1.37	1.52	1.60	1.64	1.63	1.61	1.60	1.62	1.65	1.68

	平成22年(2010)→平成27年(2015)	平成27年(2015)→平成32年(2020)	平成32年(2020)→平成37年(2025)	平成37年(2025)→平成42年(2030)	平成42年(2030)→平成47年(2035)	平成47年(2035)→平成52年(2040)	平成52年(2040)→平成57年(2045)	平成57年(2045)→平成62年(2050)	平成62年(2050)→平成67年(2055)	平成67年(2055)→平成72年(2060)
出生数(人)	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915
死亡数(人)	4,537	5,199	5,868	6,469	6,767	7,000	6,959	6,960	7,193	7,368
純移動数(人)	2,190	3,007	3,887	1,337	1,356	1,376	1,376	1,428	1,432	1,419
人口増減数(人)	1,568	1,723	1,934	-1,217	-1,496	-1,709	-1,668	-1,617	-1,846	-2,034

(3) 人口シミュレーションの結果まとめ

人口シミュレーションについて、各結果をまとめて示します。平成72年（2060年）で、最も人口が少なくなる推計は「(1)本市の独自推計」で、最も人口が多くなる推計は「(2)④合計特殊出生率が人口置換水準まで上昇した場合」となります。

図表 各シミュレーションにおける総人口推移



図表 各シミュレーションにおける基本データ（再掲）

注) 総人口, 15~49歳女性人口, 合計特殊出生率は各年の値, 出生数, 死亡数, 純移動数, 人口増減数は5年間の累計値

(1)本市の独自推計

	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口(人)	93,238	94,851	95,384	96,051	93,603	90,809	87,715	84,576	81,354	77,770	73,848
15~49歳女性人口(人)	21,500	20,587	19,176	17,674	16,679	16,059	15,685	15,288	14,593	13,821	12,926
合計特殊出生率	1.32	1.38	1.35	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33

	平成22年 (2010)→ 平成27年 (2015)	平成27年 (2015)→ 平成32年 (2020)	平成32年 (2020)→ 平成37年 (2025)	平成37年 (2025)→ 平成42年 (2030)	平成42年 (2030)→ 平成47年 (2035)	平成47年 (2035)→ 平成52年 (2040)	平成52年 (2040)→ 平成57年 (2045)	平成57年 (2045)→ 平成62年 (2050)	平成62年 (2050)→ 平成67年 (2055)	平成67年 (2055)→ 平成72年 (2060)
出生数(人)	3,960	3,437	3,155	3,054	3,011	2,951	2,877	2,748	2,601	2,433
死亡数(人)	4,537	5,199	5,866	6,464	6,760	6,985	6,940	6,931	7,141	7,297
純移動数(人)	2,190	2,295	3,378	962	955	940	924	961	956	942
人口増減数(人)	1,613	533	667	-2,448	-2,794	-3,094	-3,139	-3,222	-3,584	-3,922

(2)①合計特殊出生率が現在の全国平均値に上昇した場合

	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口(人)	93,238	94,851	95,460	96,259	93,937	91,276	88,318	85,332	82,276	78,878	75,149
15~49歳女性人口(人)	21,500	20,587	19,176	17,674	16,679	16,099	15,790	15,462	14,838	14,148	13,340
合計特殊出生率	1.32	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38

	平成22年 (2010)→ 平成27年 (2015)	平成27年 (2015)→ 平成32年 (2020)	平成32年 (2020)→ 平成37年 (2025)	平成37年 (2025)→ 平成42年 (2030)	平成42年 (2030)→ 平成47年 (2035)	平成47年 (2035)→ 平成52年 (2040)	平成52年 (2040)→ 平成57年 (2045)	平成57年 (2045)→ 平成62年 (2050)	平成62年 (2050)→ 平成67年 (2055)	平成67年 (2055)→ 平成72年 (2060)
出生数(人)	3,960	3,513	3,286	3,180	3,136	3,085	3,023	2,902	2,767	2,610
死亡数(人)	4,537	5,199	5,866	6,464	6,760	6,985	6,940	6,933	7,144	7,300
純移動数(人)	2,190	2,295	3,379	962	963	942	931	975	979	961
人口増減数(人)	1,613	609	799	-2,322	-2,661	-2,958	-2,986	-3,056	-3,398	-3,729

(2)②合計特殊出生率が国の目標値まで上昇した場合(パターン1)

	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口(人)	93,238	94,896	95,549	96,389	94,342	91,959	89,511	87,281	85,210	82,831	80,200
15~49歳女性人口(人)	21,500	20,587	19,176	17,674	16,703	16,145	15,861	15,676	15,202	14,779	14,376
合計特殊出生率	1.32	1.40	1.40	1.40	1.50	1.50	1.60	1.70	1.80	1.80	1.80

	平成22年 (2010)→ 平成27年 (2015)	平成27年 (2015)→ 平成32年 (2020)	平成32年 (2020)→ 平成37年 (2025)	平成37年 (2025)→ 平成42年 (2030)	平成42年 (2030)→ 平成47年 (2035)	平成47年 (2035)→ 平成52年 (2040)	平成52年 (2040)→ 平成57年 (2045)	平成57年 (2045)→ 平成62年 (2050)	平成62年 (2050)→ 平成67年 (2055)	平成67年 (2055)→ 平成72年 (2060)
出生数(人)	4,005	3,557	3,328	3,453	3,411	3,585	3,765	3,866	3,760	3,656
死亡数(人)	4,537	5,199	5,866	6,464	6,761	6,985	6,940	6,933	7,145	7,302
純移動数(人)	2,190	2,295	3,378	964	967	952	945	996	1,006	1,015
人口増減数(人)	1,658	653	840	-2,047	-2,383	-2,448	-2,230	-2,071	-2,379	-2,631

(2)③合計特殊出生率が国の目標値まで上昇した場合(パターン2)

	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口(人)	93,238	94,896	95,929	97,486	96,136	94,503	92,699	90,979	89,322	87,446	85,398
15～49歳女性人口(人)	21,500	20,587	19,176	17,674	16,703	16,341	16,440	16,641	16,593	16,530	16,421
合計特殊出生率	1.32	1.40	1.55	1.70	1.80	1.80	1.80	1.80	1.80	1.80	1.80

	平成22年 (2010)→ 平成27年 (2015)	平成27年 (2015)→ 平成32年 (2020)	平成32年 (2020)→ 平成37年 (2025)	平成37年 (2025)→ 平成42年 (2030)	平成42年 (2030)→ 平成47年 (2035)	平成47年 (2035)→ 平成52年 (2040)	平成52年 (2040)→ 平成57年 (2045)	平成57年 (2045)→ 平成62年 (2050)	平成62年 (2050)→ 平成67年 (2055)	平成67年 (2055)→ 平成72年 (2060)
出生数(人)	4,005	3,937	4,041	4,145	4,143	4,182	4,230	4,221	4,205	4,178
死亡数(人)	4,537	5,199	5,866	6,464	6,761	6,985	6,940	6,935	7,148	7,311
純移動数(人)	2,190	2,295	3,382	969	985	999	990	1,057	1,067	1,085
人口増減数(人)	1,658	1,033	1,557	-1,350	-1,633	-1,804	-1,720	-1,657	-1,876	-2,048

(2)④合計特殊出生率が人口置換水準まで上昇した場合

	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口(人)	93,238	94,896	95,929	97,486	96,250	95,077	93,971	92,985	92,147	91,214	90,246
15～49歳女性人口(人)	21,500	20,587	19,176	17,674	16,703	16,341	16,440	16,698	16,888	17,201	17,503
合計特殊出生率	1.32	1.40	1.55	1.70	1.85	2.00	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10

	平成22年 (2010)→ 平成27年 (2015)	平成27年 (2015)→ 平成32年 (2020)	平成32年 (2020)→ 平成37年 (2025)	平成37年 (2025)→ 平成42年 (2030)	平成42年 (2030)→ 平成47年 (2035)	平成47年 (2035)→ 平成52年 (2040)	平成52年 (2040)→ 平成57年 (2045)	平成57年 (2045)→ 平成62年 (2050)	平成62年 (2050)→ 平成67年 (2055)	平成67年 (2055)→ 平成72年 (2060)
出生数(人)	4,005	3,937	4,041	4,259	4,604	4,877	4,954	5,011	5,103	5,197
死亡数(人)	4,537	5,199	5,866	6,464	6,761	6,985	6,940	6,936	7,151	7,316
純移動数(人)	2,190	2,295	3,382	969	984	1,002	1,000	1,087	1,115	1,151
人口増減数(人)	1,658	1,033	1,557	-1,236	-1,173	-1,106	-986	-838	-933	-968

(2)⑤「出生数維持」の考え方に基づく場合

	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口(人)	93,238	94,806	95,819	97,243	95,645	93,766	91,675	89,626	87,632	85,422	83,045
15～49歳女性人口(人)	21,500	20,587	19,176	17,674	16,668	16,295	16,333	16,421	16,243	16,016	15,701
合計特殊出生率	1.32	1.37	1.54	1.65	1.70	1.71	1.70	1.69	1.71	1.73	1.76

	平成22年 (2010)→ 平成27年 (2015)	平成27年 (2015)→ 平成32年 (2020)	平成32年 (2020)→ 平成37年 (2025)	平成37年 (2025)→ 平成42年 (2030)	平成42年 (2030)→ 平成47年 (2035)	平成47年 (2035)→ 平成52年 (2040)	平成52年 (2040)→ 平成57年 (2045)	平成57年 (2045)→ 平成62年 (2050)	平成62年 (2050)→ 平成67年 (2055)	平成67年 (2055)→ 平成72年 (2060)
出生数(人)	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915
死亡数(人)	4,537	5,199	5,866	6,464	6,760	6,987	6,942	6,935	7,148	7,307
純移動数(人)	2,190	2,297	3,375	951	966	981	978	1,026	1,023	1,015
人口増減数(人)	1,568	1,013	1,424	-1,598	-1,879	-2,091	-2,049	-1,994	-2,210	-2,377

(2)⑥「出生数維持」及び「社会増」の考え方に基づく場合

	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口(人)	93,238	94,806	96,529	98,463	97,246	95,750	94,041	92,373	90,756	88,910	86,876
15～49歳女性人口(人)	21,500	20,587	19,456	18,159	17,307	17,078	17,254	17,341	17,062	16,805	16,489
合計特殊出生率	1.32	1.37	1.52	1.60	1.64	1.63	1.61	1.60	1.62	1.65	1.68

	平成22年 (2010)→ 平成27年 (2015)	平成27年 (2015)→ 平成32年 (2020)	平成32年 (2020)→ 平成37年 (2025)	平成37年 (2025)→ 平成42年 (2030)	平成42年 (2030)→ 平成47年 (2035)	平成47年 (2035)→ 平成52年 (2040)	平成52年 (2040)→ 平成57年 (2045)	平成57年 (2045)→ 平成62年 (2050)	平成62年 (2050)→ 平成67年 (2055)	平成67年 (2055)→ 平成72年 (2060)
出生数(人)	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915	3,915
死亡数(人)	4,537	5,199	5,868	6,469	6,767	7,000	6,959	6,960	7,193	7,368
純移動数(人)	2,190	3,007	3,887	1,337	1,356	1,376	1,376	1,428	1,432	1,419
人口増減数(人)	1,568	1,723	1,934	-1,217	-1,496	-1,709	-1,668	-1,617	-1,846	-2,034